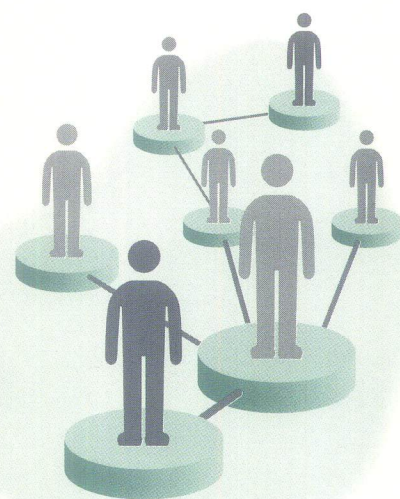


Newsletter

Feb 1, 2006

6



国際ネットワーク 実験室開所

本年度4月に当COE拠点において国際ネットワーク実験室が開所しましたので報告します。この実験室により、国内外の実験参加者が同時に実験に参加し、相互作用を通してインターネット・コミュニケーションを介した実験をおこなうシステムが構築されました。本拠点と国際共同研究をおこなっているニュージーランド・ヴィクトリア大学ウェリントン校において国際ネットワーク実験室の開所式が開催されました。

本拠点における研究紹介

本COE拠点では、この成功をステップとして、現在、ヴィクトリア大学(ニュージーランド)・中山大學(中国)・国立台湾大學(台湾)の各大学と国際ネットワーク実験をおこなっております。以下にその経過を報告します。

国際ワークショップ開催

2005年度において、社会心理学・文化心理学の生態学的基盤を追究する第一線で活躍中の研究者をパネリストとして、一連のCEFOM/21主催「国際ワークショップ」が開催されました。また若手研究者を中心としたパネル発表も行われ、第一線で活躍中のパネリストと直接に議論を交わすという貴重な機会を若手研究者が持つことができました。各パネリストの紹介と、講演の内容を紹介します。

CONTENTS

国際ネットワーク
実験室開所式

1
2
3

研究紹介

4

ワークショップ報告

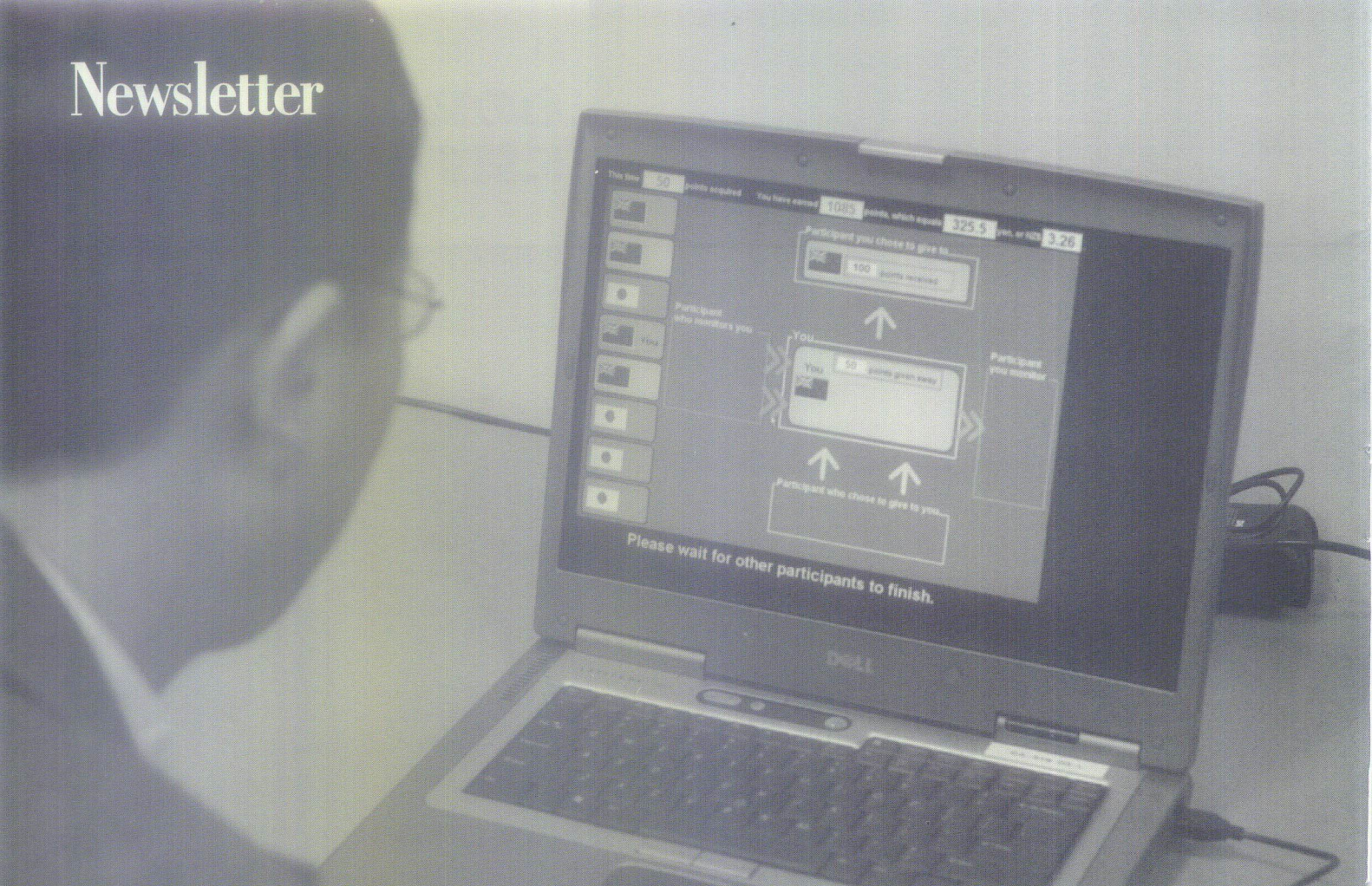
5
6

2005年 研究成果

7
8

お知らせ

8



2 国際ネットワーク 実験室開所式

本COE拠点は、世界に先駆けて、ネットワークを介して国内外の実験参加者が同時に実験に参加し、相互作用を通してコミュニケーションできるシステムの構築を目指してまいりました。日本サイドでは、その研究プロジェクト施設として北海道大学の尽力のもとに、人文・社会科学総合教育研究棟(W棟)に16の参加者個室を備えた“国際ネットワーク実験室”を設置して研究を進めておりますが、このたび海外サイドのネットワーク実験基地として、かねてより研究提携関係にありました、ニュージーランド・ヴィクトリア大学ウェリントン校に国際ネットワーク実験室が完成しましたことを報告します。

これに伴い、去る4月5日当地におきまして、実験室開所式が開かれました。開所式は、ヴィクトリア大学関係者、北海道大学関係者、そして前日までウェリントンにて行われていたアジア社会心理学会に参加していた世界各国の研究者を招待して



国際ネットワーク実験室を使った、日本サイドとのオンライン取引交渉の模擬実験を体験する式典参加者

とっておこなわれました。まずヴィクトリア大学ウェリントン校副学長の挨拶から始まり、前日まで行われていたアジア社会心理学会に参加していた世界各国の研究者に、模擬実験参加者として実際に日本サイドとネットワーク接続を行いコミュニケーションするという体験をしてもらいました。参加された研究者たちからは実際の経済取引がリアルタイムで決まっていく過程を体験できたこと、またネットワーク設営に伴う様々な物

理的障害を克服し、このような実験施設を作り上げた高度な技術的バックグラウンドについて、あるいは社会科学全般におけるさらなる国際協力研究の可能性について様々な賞賛のコメントをいただくことができました。

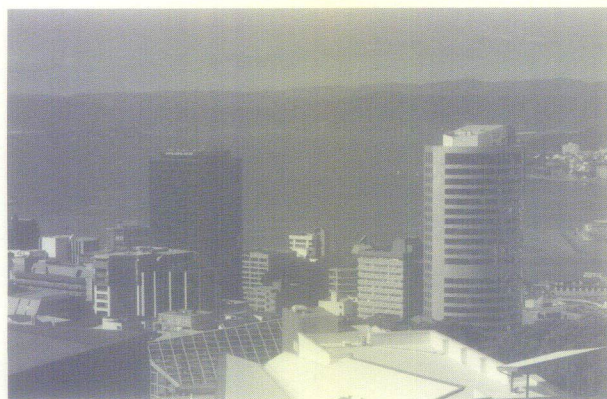
その後、大学構内の会場において、ヴィクトリア大学ウェリントン校心理学部長により、北海道大学とともに世界に先駆けて国際ネットワーク実験設備を設置できたことを喜ばしく思い、また今後この実験設備を利用して北海道大学と長期にわたる協力関係を期待する旨がスピーチされました。また、日本サイド代表として、本COE拠点リーダー山岸俊男教授により、北海道大学の紹介、私どもの、人文・社会科学総合教育研究棟(W棟)実験施設の紹介、そしてこのような国際ネットワーク実験施設を利用した、さらなる国際協力の必要性についてのスピーチが行われました。

本COE拠点では、この成功をステップとして、更なる国際的研究に邁進していきたいと思っております。本COE拠点において現在進行中の研究の紹介につきまして詳しくは、以下のウェブサイトをご覧ください。

<http://lynx.let.hokudai.ac.jp/COE21/workshop/index.html>



COE 拠点リーダー・山岸教授によるスピーチと交流会の様子



大学紹介

ヴィクトリア大学ウェリントン校

ニュージーランドの首都ウェリントン市街を見下ろす絶景の地に立てられた総合大学。心理学研究などが盛んにおこなわれている。

ヴィクトリア大学ウェリントン校研究棟からウェリントン市街を望む

本COE研究拠点における 研究の紹介

当研究拠点においては、上記の国際ネットワーク実験室を利用し、すでに「信頼」に関する、各国間インターネット接続による国際ネットワーク実験プロジェクトを開始しています。本プロジェクトの日本の代表は山岸俊男・北海道大学大学院文学研究科教授、中国は王飛雪・中山大学教授、台湾は林以正・台湾国立大学教授、ニュージーランドはジェームズ・リュウ・ヴィクトリア大学教授です。これまで当研究拠点においては、山岸俊男教授のグループを中心として「信頼」の文化的・生態学的基盤を探る研究が行われてきており、数多くの研究論文発表がおこなわれてきました。

当COE拠点において最近解明されたことのひとつとしては、ゲーム理論的状况における社会的相互作用のありかたが、相互作用する相手が自分と同じグループ(内集団)に所属しているか、または異なるグループ(外集団)に所属しているかによって、相手に対する社会的行動(「信頼」したり、「制裁」を与えたり、など)が異なる、

というものがあります。たとえば、人間は一般に、外集団に属する「裏切り者」と比べて、内集団に属する「裏切り者」のほうをより強く罰することが見いだされました。これは、内集団に属するメンバーの裏切り行為は、(自分を含めた)内集団メンバー全員に対して不利益をもたらすのに対し、外集団における裏切り行為は、そのような不利益を必ずしももたらさないからだと考えられ、①「人々は自分の所属する集団とアイデンティティが一体化し、内集団のメンバーを外集団のメンバーよりも無条件にひいきする傾向が強い」という、広く流布した考

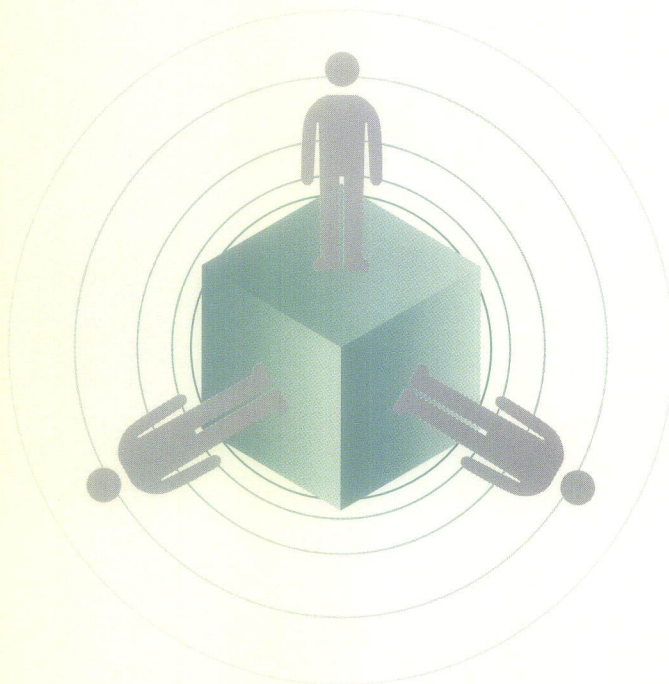
えが間違っていること、また②人々の社会行動が、人々間の社会的ネットワークのありかたに適応合理的に依存していること、などを示しています。

本研究プロジェクトにおいては、「社会的相互作用の相手がい内集団のメンバーであるか、または外集団のメンバーであるかにより、人々の社会行動が“適応合理的”に影響される」という前述の知見が、日本人、中国人、台湾人、ニュージーランド人、といった「ナショナル・アイデンティティに基づいた社会集団」

に所属する人々どうしの相互作用においても見出されるかどうか、などを調べるのが目的のひとつです。そのため、各国の大学をインターネットで接続し、ゲーム理論状況での社会行動(「信頼」・「懲罰」など)の実験をリアルタイムでおこなうことが特色です。

ナショナル・アイデンティティに基づいた「集団」カテゴリーは、社会心理学的認知行動プロセスだけでなく、政治心理学的プロセスも誘発すると考

えられます。したがって、この研究プロジェクトのもつインパクトは、社会心理学だけではなく、政治学、社会学、国際関係論(特に紛争解決などの分野)、人類学などの人文社会科学のさまざまな分野にまで及ぶことと考えられます。特に、日本人—中国人間の社会的相互作用のありかたと、中国人—台湾人間の社会的相互作用のありかたがどう異なるかを解明することは、台湾の複雑な歴史事情を考慮した場合、社会心理学的効果以外の因子までもが見出される可能性があるという点でも社会科学的重要性だと考えられます。



2005年度 CEFOM/21 国際ワークショップ報告

第8回

日 時：2005年5月24日(火) 14:00～15:30
 場 所：北海道大学人文・社会科学総合教育研究棟 409 室
 発表者：David Matsumoto (米国・サンフランシスコ州立大学)
 参加者：山岸 俊男 (北海道大学大学院文学研究科)
 亀田 達也 (北海道大学大学院文学研究科)
 Mark H. B. Radford (北海道大学大学院文学研究科)
 高橋 伸幸 (北海道大学大学院文学研究科)
 結城 雅樹 (北海道大学大学院文学研究科) 他約 35 名

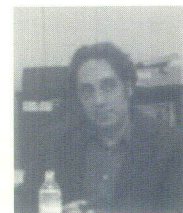


David Matsumoto

デイビッド・マツモト博士(サンフランシスコ州立大学教授)を招き、表情表出の汎文化普遍性について、2004年のオリンピックに参加した選手の写真を分析する研究を講演していただいた。大学院生を交えたその後の質疑応答では、自発的な表情の重要性について議論が行われた。

第9回

日 時：2005年6月9日(木) 15:00～17:30
 場 所：北海道大学人文・社会科学総合教育研究棟 409 室
 発表者：Davide Torsello (イタリア・レッチェ大学)
 参加者：山岸 俊男 (北海道大学大学院文学研究科)
 Mark H. B. Radford (北海道大学大学院文学研究科)
 高橋 伸幸 (北海道大学大学院文学研究科)
 結城 雅樹 (北海道大学大学院文学研究科) 他約 25 名



Davide Torsello

第9回国際ワークショップでは、ダビデ・トルセロ博士(レッチェ大学教授)を招き東欧、南部イタリアにおける不信の文化に関する研究を講演していただいた。

第10回

"Information Use and Group Living"

日 時：2005年10月26日(水)～28日(金)
 場 所：北海道大学・遠友学舎

集団における情報使用は、人間を含む社会的動物を理解する上での核心的なテーマとして認識されつつある。近年、共通の理論と方法論(進化ゲーム理論, シミュレーション・モデル, 行動実験)を背景とした情報の使用に関する分析から、様々な統合的研究テーマが生まれつつある。これらの研究テーマは、「不確実性の存在する状況下で個体がどのように情報探索に取り組むか」や、「個体が行動を選択する上で個人的に獲得した情報と社会的情報をどのように組み合わせるのか」、また「知識を共有する個体群(あるいは「文化」)の中で、情報がどのように伝播し、また蓄積されていくのか」などを問題として扱っている。しかし、分野間の連結が可能であるにもかかわらず、十分な交流のないまま、これらの研究成果は異なる分野(行動生態学, 社会心理学, 進化人類学, 経済学)の間に散在してきた。

2005年度

CEFOM/21 国際ワークショップ報告

今回のワークショップではこれらのトピックを扱っているアクティブな研究者を一堂に集め、集中した議論がおこなわれた。

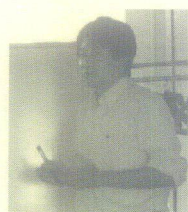
発表者：亀田 達也（行動科学，北海道大学大学院文学研究科教授）

Reid Hastie（決定科学，シカゴ大学教授）

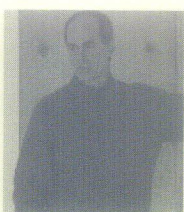
Richard McElreath（進化人類学，カリフォルニア大学デービス校教授）

中丸麻由子（数理生物学，東京工業大学講師）

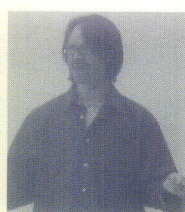
Luc-Alain Giraldeau（行動生態学，ケベック大学教授）



亀田 達也



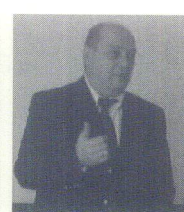
Reid Hastie



Richard McElreath



中丸 麻由子



Luc-Alain Giraldeau

6

第11回

日時：2005年11月8日(火)

場所：北海道大学文学研究科

発表者：Robert Kurzban（米国・ペンシルバニア大学）

参加者：山岸 俊男（北海道大学大学院文学研究科）

亀田 達也（北海道大学大学院文学研究科）

Mark H. B. Radford（北海道大学大学院文学研究科）

高橋 伸幸（北海道大学大学院文学研究科）

結城 雅樹（北海道大学大学院文学研究科）

大沼 進（北海道大学大学院文学研究科） 他約30名



Robert Kurzban

第11回国際ワークショップでは、Robert Kurzban 博士（ペンシルバニア大学助教授）を招き、行動実験の結果を中心に、集団内互酬性と第三者制裁行動についての講演を行って頂いた。

ここで紹介した以外にも、2005年にはさまざまな一般公開ワークショップなどが開催されました。詳しくは、本拠点のウェブサイトをご覧ください

<http://lynx.let.hokudai.ac.jp/COE21/workshop/index.html>

2005年度研究成果

(事業推進担当者による研究業績)

■ 著 書

- Irimoto, T. (in press).
The eternal cycle: Ecology and worldview of the reindeer herders of Northern Kamchatka. *Senri Ethnological Reports*, National Museum of Ethnology.
- 金見曉嗣・結城雅樹(編著)(2005).
文化行動の社会心理学 北大路書房

■ 分担執筆

- 阿部純一(印刷中).
認知科学 日本音楽教育事典音楽之友社
- Adachi, M., & Chino, Y. (in press).
Creative music making for everyone.
In S. Lau (Ed.), *Creativity: A moment of Aha!* Hong Kong: The City University of Hong Kong Press.
- 石井敬子・北山忍(2005).
考え方・感じ方の文化心理学: 認知・感情の文化依存性
金見曉嗣・結城雅樹(編)文化行動の社会心理学 北大路書房
- Kameda, T., & Tindale, R.S. (in press).
Groups as adaptive device: Human docility and group aggregation mechanisms in evolutionary context.
In M. Schaller, J. Simpson, & D. Kenrick (Eds.), *Evolution and social psychology*. New York: Psychology Press.
- Martignon, L., Foster, M., Vitouch, O., & Takezawa, M. (in press).
Simple heuristics versus complex predictive instruments: Which is better and why?
In L. Macchi, & D. Hardman (Eds.), *The psychology of reasoning and decision making: A handbook*. Chichester: Wiley.
- Ohtsubo, Y., Fujita, M., & Kameda, T. (in press).
How can psychology contribute to designing a mixed jury system in Japan?: Ongoing debates and a thought experiment.
Progress in Asian Social Psychology (Vol. 4).
- Takemura, K., Yuki, M., Kashima, E. S., & Halloran, M. (in press).
A cross-cultural comparison of behaviors and independent/interdependent self-views.
Progress in Asian Social Psychology (Vol. 5).

■ 論 文

- Cook, K. S., Yamagishi, T., Coye, C., Cooper, R., Matsuda, M., & Mashima, R. (in press).
Trust building via risk taking: A cross-societal experiment.
- Foddy, M., Platow, M., & Yamagishi, T. (submitted).
Group-based Trust in Strangers: Evaluations or Expectations?
- Gray, H. M., Ambady, N., Ishii, K., & Kitayama, S. (submitted).
Mood effects on relative attention to verbal and nonverbal cues: The role of affiliation goals.
- Hastie, R., & Kameda, T. (in press).
The robust beauty of majority rules in group decisions. *Psychological Review*.
- 煎本孝(印刷中).
アイヌ文化における死の儀礼の復興をめぐる紛争解決・共生・行為主体
北海道大学大学院文学研究科紀要
- Ishii, K. (in press).
Does mere exposure enhance positive evaluation, independent of stimulus recognition?: A replication study in Japan and the US.

Japanese Psychological Research.

- Ishii, K., & Kitayama, S. (submitted).
Is dominance of holistic attention to context among Japanese found over the course of adulthood?
- Ishii, K., & Kurzban, R. (submitted).
Real time public goods game in Japan: Cultural and individual differences in trust and reciprocity.
- Kameda, T., & Hastie, R. (in press).
Building an even better conceptual foundation. *Behavioral and Brain Sciences*.
- Kameda, T., & Tamura, R. (submitted).
"To eat or not to be eaten?" Collective risk-monitoring in groups.
- Kashima, Y., Kashima, E. Chiu, C-Y., Farsides, T., Gelfand, M., Hong, Y-Y. Kim, U., Strack, F., Worth, L., Yuki, M. & Yzerbyt, V. (in press).
Culture, essentialism, and agency: Are individuals universally believed to be more real entities than groups?
European Journal of Social Psychology.
- Kashima, Y., Kashima, E. Chiu, C-Y., Farsides, T., Gelfand, M., Hong, Y-Y. Kim, U., Strack, F., Worth, L., Yuki, M. & Yzerbyt, V. (submitted).
Culture, gender, and self: Is women's sphere universally familial and men's sphere universally societal?
- Kitayama, S., Ishii, K., Imada, T., Takemura, K., & Ramaswamy, J. (in press).
Voluntary settlement and the spirit of independence: Evidence from Japan's "Northern frontier". *Journal of Personality and Social Psychology*.
- Kiyonari, T., Yamagishi, T., Cook, K. S., & Cheshire, C. (in press).
Does Trust Beget Trustworthiness? Trust and Trustworthiness in Two Games and Two Cultures. *Social Psychology Quarterly*.
- Liu, J.H., Goldstein-Hawes, R., Hilton, D., Huang, L.L., Gastardo-Conaco, C., Pittolo, F., Hong, Y.Y., Dresler-Hawke, E., Ward, C., Abraham, S., Kashima, Y., Kashima, E., Ohashi, M., Yuki, M., & Hidaka, Y. (2005).
Social representations of events and people in world history across 12 cultures. *Journal of Cross-Cultural Psychology*, 36, 171-191.
- Maddux, W.W., & Yuki, M. (submitted). The "ripple effect": Cultural differences in subjective perceptions of responsibility.
- 牧村洋介・山岸俊男(投稿中).
国籍カテゴリーを用いた集団間行動に関する実験研究
- 真島理恵・高橋伸幸(印刷中).
間接互惠性の成立: 非寛容な選別主義に基づく利他行動の適応的基盤
心理学研究
- Masuda, T., Ellsworth, P., Mesquita, B., Leu, J., Tanida, S., & Veerdonk, E. (submitted).
A face in the crowd or a crowd in a face?
- Masuda, T., & Nisbett, R. E. (submitted).
Culture and change blindness.
- Miyamoto, Y., Nisbett, R. E., & Masuda, T. (submitted).
Culture and physical environment: Holistic versus analytic perceptual affordances.

2004年度研究成果

- Nakayama, Y., Takahashi, T., & Radford, M.H.B. (in press). Cortisol levels and prospective and retrospective memory in humans. *NeuroEndocrinology Letters*.
- 西原進吉・菱谷晋介 (印刷中). 触覚による空間関係処理と視覚イメージおよび大細胞系の関係 北海道心理学研究, 25 (研究奨励賞受賞論文).
- Ohmura, Y. & Yamagishi, T. (2005). Why do people reject unintended inequity? Responders' rejection in a truncated ultimatum game. *Psychological Reports*, 96, 533-541.
- Ohmura, Y., Takahashi, T. & Kitamura, N. (in press). Discounting delayed and probabilistic monetary gains and losses by smokers of cigarettes. *Psychopharmacology*
- Ohmura, Y., Takahashi, T., Kitamura, N., & Wehr, P. (in press). Three-month stability of delay and probability discounting measures. *Experimental and Clinical Psychopharmacology*.
- Ohnuma, S., Hirose, Y., Karasawa, K., Yorifuji, K. & Sugiura, J. (2005). Why do residents accept a demanding rule: Fairness and social benefit as determinants of approval for a recycling system. *Japanese Psychological Research*, 47 (1), 1-11.
- Smith, P.B., Peterson, M.F., Schwartz, S.H., Ahmad, A.H., Akande, D., Andersen, J.A., Ayestaran, S., Bellotto, M., Bochner, S., Callan, V., Davila, C., Ekelund, B., Francois, P-H., Graversen, G., Harb, C., Jesuino, J., Kantas, A., Karamushka, L., Koopman, P., Leung, K., Kruzela, P., Malvezzi, S., Mogaji, A., Mortazavi, S., Munene, J., Parry, K., Peng, T.K., Punnet, B.J., Radford, M., Ropo, A., Saiz, J., Savage, G., Sorenson, R., Szabo, E., Teparakul, P., Tirmizi, A., Tsvetanova, S., Viedge, C., Wall, C., Wang, Z.M., & Yanchuk, V. (in press). Demographic effects on the use of vertical sources of guidance by managers in widely differing cultural contexts. *International Journal of Cross-Cultural Management*.
- Takahashi, T. (in press). Social memory, social stress, and economic behaviors. *Brain Research Bulletin*.
- Takahashi, T. (in press). Loss of self-control in intertemporal choice may be attributable to logarithmic time-perception---a mathematical model. *Medical Hypotheses*.
- Takahashi, T., Ikeda, K., Ishikawa, M., Kitamura, N., Tsukasaki, T., Nakama, D., & Kameda, T. (2005). Interpersonal trust and social stress-induced cortisol elevation. *NeuroReport*, 16, 197-199.
- Takahashi, T., Ikeda, K., Ishikawa, M., Kitamura, N., Tsukasaki, T., Nakama, D., & Kameda, T. (in press). Anxiety, reactivity, and social stress-induced cortisol elevation in humans. *Neuroendocrinology Letters*.
- Takemura, K., & Yuki, M. (in press). Are Japanese groups more competitive than Japanese individuals? A cross-cultural validation of the interindividual-intergroup discontinuity effect. *International Journal of Psychology*.
- 田村亮・亀田達也 (投稿中). 表情は伝播するのか? 一日本人参加者を用いた検討—
- 田村亮・亀田達也・深野紘幸 (印刷中). 合議におけるバレット原理の頑健性: 「寡きを患えず、均しからざるを患う」? (Ⅱ) 社会心理学研究
- 寺井滋・森田康裕・山岸俊男 (投稿中). 選択的プレイ状況における信頼行動と協力関係: 依存度選択型囚人のジレンマゲームを用いた実験研究
- 山岸俊男 (印刷中). 実験ゲーム数理科学
- Yamagishi, T., Foddy, M., Makimura, Y., Matsuda, M., Kiyonari, T., & Platow M. (in press). Comparisons of Australians and Japanese on group-based cooperation. *Asian Journal of Social Psychology*.
- Yamagishi, T., Kanazawa, S., Mashima, R., & Terai, S. (submitted). Separating trust from cooperation in a dynamic relationship: Prisoner's dilemma with variable dependence.
- Yamagishi, T., & Matsuda, M. (submitted). The role of reputation in open and closed societies: An experimental study of internet auctioning.
- Yamagishi, T., Terai, S., Mifune, N., & Kanazawa, S. (submitted). Managing errors in social exchange.
- Yuki, M., Maddux, W.W., Brewer, M.B., & Takemura, K. (2005). Cross-cultural differences in relationship- and group-based trust. *Personality and Social Psychology Bulletin*, 31, 48-62.
- Wang, F., & Yamagishi, T. (in press). Group-based trust and gender-difference in China. *Asian Journal of Social Psychology*.

学会開催 のお知らせ

2006年7月15日～16日に、上智大学において、比較社会科学国際コンファレンスが開催されます。
詳しくは、<http://www.geocities.jp/comparativesciences/> をご覧ください。

2005年6月24日～26日に、北海道大学学術交流会館(札幌)において、第3回数理社会学会日米合同会議が、
日本数理社会学会とアメリカ社会学会数理社会学部門の主催で開催されました。
以上の学会には、CEFOM/21も共催として参加しています。

21世紀COE

“心の文化・生態学的基盤”研究教育拠点



〒060-0810

札幌市北区北10条西7丁目

北海道大学文学研究科行動システム科学講座

TEL:011-706-3047

Email:cefom@let.hokudai.ac.jp

Homepage:<http://lynx.let.hokudai.ac.jp/COE21/>